

川崎市青少年育成連盟 (株)川崎市子ども会連盟・ボーイスカウト川崎地区協議会・ガールスカウト川崎市連絡会・川崎海洋少年団

育連だより

<http://web-k.jp/ikuren/>

中高生リーダー研修会

平成25年度中高生リーダー研修会が平成26年3月22日(土)から23日(日)の2日間、川崎市黒川青少年野外活動センターにて開催されました。

川崎市青少年育成連盟に加盟しているの4団体の中高校生が、互いの活動を紹介しあい、一緒に体験しながら学び、川崎市内の同じ仲間として交流していくことを目的としています。この研修のために中高生や指導者が研修委員として集まり、会議を重ねて企画準備を進めてきました。

《感想》

研修委員長 ボーイスカウト第54団 新海 正太

私は中高生リーダー研修会に参加するのも、スタッフをやるのも初めてでした。初めて参加して委員長になり、得たもの、知ったことはたくさんありました。中でも他団体の友達やスタッフとのつながりや各団体の活動内容などを深く知ることができました。また、初めて委員長やってみて参加者をまとめるのが大変ということを感じました。プログラムごとに参加者に指示を出したり、次のプログラムのための動きをスタッフに伝えたりなど、自分が思っていることを正確に伝えたりするのがなかなかうまくいかず大変でした。

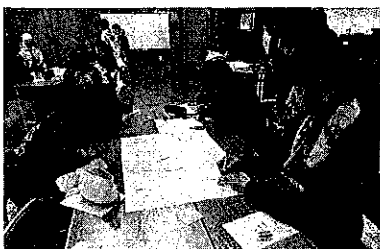
初日には、開会式の後にアイスブレイクを行い、参加者の緊張をほぐしながら少しずつ親睦を深めていきました。各団体の活動を知るための情報交換では、お互いに活動内容について質問しあったり、自分たちの団体の活動を説明したりとみんな楽しそうに話し合っていました。自分たちが思っていた他団体の活動のイメージと違ったものや新たな発見もあったのでよかったです。キャンドルファイヤーでは、楽しいゲームや各班ごとのスタンツ、歌などでとても盛り上がっていました。私自身もとても楽しくて汗をかくぐらい盛り上がりました。プログラムが進むにつれ、とても雰囲気よくなり、全体的に仲良くなっているのがわかりました。

2日目の朝、集まってきた時は少し眠そうだったけれど、朝ご飯ですっかり元気になり、完食してしまうほどでした。片づけや掃除は、みんなで協力し、ひとりひとりがちゃんと働いてくれたので時間通り

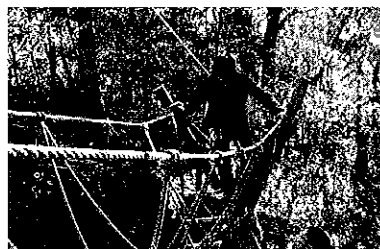


に終わることができました。2日目の研修プログラムは、各団体によるものでした。ガールスカウトのアドバイザーの方が軍手ばさみの作り方を教えてくれました。完成してしまった子は作るのに苦戦している子の手伝いをしていました。ボーイスカウトからは、ボーイスカウトの活動で代表的なパイオニアリング。モンキーブリッジという足場が綱の橋を渡る体験をしました。子ども会はレクリエーションやゲームをリードしてくれました。昼食はBBQをしました。各鉄板を行き来して和気あいあいとおいしそうに食べていました。感想と二日間の振り返りでは、BBQのときの空気とは変わって真剣に取り組み、しっかりと書いていました。制服姿での閉会式の後、玄関で写真撮影をして研修は終了しました。

二日間、どのプログラムも楽しく参加することができたのでよかったです。中でも軽スポの時間にやったポートボールは怪我をしてしまうぐらい全力でやりました。みんなで協力して点を取りに行き、得点した時は特に嬉しかったです。参加者一人一人に深く関わられなかったのが心残りです。全体的に楽しめた研修だったのでとてもよい思い出です。



情報交換



パイオニアリング



クラフト (軍手ばさみ)

少子化情報提供支援事業研修会の報告

川崎市青少年育成連盟事務局

川崎市青少年育成連盟が委託されている少子化情報提供支援事業の3回目の研修会が、平成26年3月13日に高津市民館にて行われました。

今回は、日本けん玉協会神奈川県総支部の方々を迎え、「けん玉～創造性とその世界について～」と題し、歴史や特徴についての講義と、実際にけん玉を手にして実技演習を行いました。

ひとりに1つ配布されたけん玉に、緊張感や懐かしさを抱きつつ、講師の方々に上達のコツも伝授されて、奮闘する参加者。昔取った杵柄で軽快に楽しむ方、初めての経験で大皿・小皿に乗せられて喜ぶ方、興味がなかったのにすっかり魅力にとりつかれてしまった方、講師の方のアドバイスを真剣に聞いて練習に励むジュニアリーダーと、参加者それぞれ

て練習に励むジュニアリーダーと、参加者それぞれ充実した時間をすごしました。

また、坂本顕大六段、水野慎也五段によるデモンストレーションの時間もありました。伝統遊びの域を超え、アクロバットけん玉とも称される速さと華やかさ、けん玉を自在に操るその高度な技術に拍手と賛嘆の声が上がり、参加者一同、大変衝撃を受けました。

近年、オシャレなスポーツとして、また、カッコいいパフォーマンスとして、青少年に急速に脚光を浴びている「けん玉」。

大人と子どもが豊かな関わりを作るためのツールの一つとして、今回の研修が広く活かされればと思います。



講義



実技



パフォーマンス



全国子ども会育成中央会議・研究宮城大会

川崎区子ども会連合会 根本 一雄

今年度の「全国子ども会育成中央会議・研究大会」は2月14日東北の松島において「被災地子ども会活動の支援と子ども達の防災キャンプ」をテーマに開催されました。川崎市子ども会連盟から表彰者4名を含む12名と全国から450名が参加して、8分科会に分かれて活発な意見交換を行いました。

その中の一つの分科会では「大防潮堤を超えた大津波の被災状況と復興の歩み」の映像を観ました。あらためて3年前の災害の大きさを思い出しました。今、東北の子ども達は大地震の教訓を生かすために、子ども会及び各地域、学区において「防災キャンプ」を実施しています。

「防災キャンプ」とは災害が発生したことを想定して行うキャンプです。食材は手でちぎり、包丁を使わず、牛乳パックを利用して簡単な野菜カレーを作ります。また、朝晩の洗面は持参したペットボト

ルに入れた限られた水量で行います。「防災キャンプ」は子ども達が可能な限り、自分たちの力だけで体験することを目的としていますが、難しいところは中高生ジュニアリーダーがサポートし、その支援に大人が当たるという形態を確立しています。

今後は、子どもが中心となってより自立した活動が出来るように進めようとしております。同時に全国の子どもの会行事でも「防災キャンプ」を取り入れて行くべきだと強く感じました。



練習帆船「日本丸」の遠洋航海出航式

川崎海洋少年団 山岡 修

晴天に恵まれた平成26年1月11日(土)横浜港新港5号岸壁にて行われました練習帆船「日本丸」の遠洋航海出航式に参加しました。

日本丸は、タンカーやコンテナ船などの航海士や機関士になるために実習生となって、横浜からハワイのホノルルまで約1か月(帰りも1か月)の訓練航海をします。

手旗信号を使い海洋少年団の団員が「いってらっしゃい」のメッセージを日本丸に向かって発信しました。

日本丸は15時ころにゆっくりと岸壁を離れ始めると、実習生がマストの上からあいさつをする登しよう礼をするためにマストを駆けのぼり配置につきました。

実習生の「ごきげんよう！」という力強い声が響き渡り、帽子を振り長い航海をがんばってきますという気持ちの表れでした。そして、日本丸はホノルルへ向けて出航していきました。

桜木町に係留してある日本丸は、54年あまり実習船として活躍していましたが、現在は引退した初代日本丸です。今回出航したのは二代目の日本丸となります。



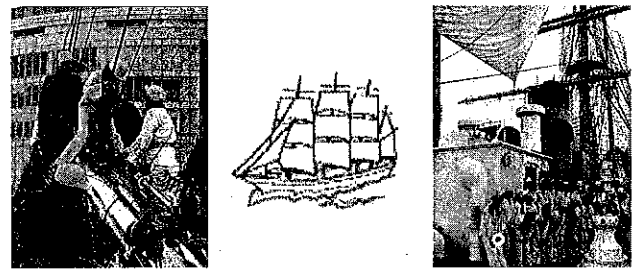
帆船「日本丸」海洋教室

ガールスカウト神奈川県第31団 山崎 結子

神奈川県のカールスカウトは、平成25年12月8日、9日の1泊2日で帆船日本丸の海洋教室に参加しました。帆船日本丸記念財団の方の主導のもと、子ども達は慣れない環境の中「海を楽しもう」という目的で参加しました。

最初の難関は登しよう訓練でした。甲板の柵を越え、海へと突き出す先端のバウスプリットに登る訓練です。それに沿うロープを横歩きで進みます。足元には、編み目の大きなネットから海が見えます。子ども達は顔を強ばらせていました。しかし、自ら踏み出して船員さんに助けられながら訓練を終えた子の顔には自信が見えました。その仲間の姿を見て、次第に皆の挑戦する決心がついたようでした。そして無事全員が訓練を終えました。

登しよう訓練を通して、子ども達の距離が近づきました。他にも甲板みがきやカッター訓練など、力を合わせて成しとげることができました。当初の目的も果たせたと思います。この経験を通して得た自信や仲間を大切にすることを生かして、今後の活動をがんばってほしいと思います。



子どもリーダー研修について

麻生区子ども会連合会 本田 知生

平成25年度の麻生区子ども会連合会「子どもリーダー研修」は主に黒川青少年野外活動センターで開催されました。

5月の開講式をスタートに、6月は多摩川美化活動、八ヶ岳宿泊研修企画会、7月の八ヶ岳事前1泊研修に続き、8月は2泊3日の八ヶ岳宿泊研修が行われます。9月、10月は遠足を計画しましたが、天候等の理由で中止を余儀なくされました。11月は餅つき大会、12月は「子ども会まつり」企画会とクリスマス会です。年明けの1月から「子ども会まつり」の準備に入ります。そして、3月の「子ども会まつり」は麻生区役所内の広場をお借りして開催されます。リーダー及びJLによるゲームコーナーや子ども会役員による焼きそばなどの各種模擬店を開きます。また、作品展の区子連表彰もこの場で行っています。

最後に閉講式を行いすべての活動を終わります。

子どもリーダー研修の主な目的は、子どもリーダー研修の成果発表の場を作り、各子ども会相互の交流や親睦を深め、行事や遊びの場を楽しく行うことにあります。これらの目的を達成し、活発な行動力とリーダー間のコミュニケーション能力を培ったリーダーたちに「リーダー研修終了書」が贈られます。今年度は47名でした。



ボルチモア市・川崎市ボーイスカウト交流派遣事業30年

ボーイスカウト川崎地区国際委員会 委員長 長谷川 博之

本交流は川崎市とボルチモア市が1979年に姉妹都市提携を締結したことに伴い、川崎地区からの提案と両市の理解と支援を得ることによって、川崎市から1985年に第一回目の派遣を開始したのが始まりでした。そして、翌年には第二回としてボルチモア派遣隊が来日しました。

それ以後、継続的に交流が進められておりますが、途中、狂牛病、SARS、鳥インフルエンザなどの問題で相互に交流が中断した時期もありました。

しかし、お互いの交流コンセプトは失われること



なく、昨年は第22回目の交流派遣プログラムとして川崎から11名が訪米し大きな成果を持ち帰り、今年第23回派遣隊としてボルチモアから15名のスカウトならびにリーダーが来日します。そして2014年（第23回：ボルチモアから来日）と2015年（第24回：川崎から訪米）は30周年記念行事と位置付けるイベントにすることが双方で合意されています。



成人式企画実施委員会に参加して

ガールスカウト神奈川県第48団 リーダー 廣瀬 未沙

成人企画実施委員会に新成人という立場として参加させて頂き、役員の方たちや他の実行委員、サポーターの方たちと協力し、「成人の日を祝うつどい」を作り上げられたことはとても良い経験になりました。

1年を通し、何度も会議を繰り返し、試行錯誤し、どうしたら新成人の思い出に残るものになるかと精一杯考えている姿を間近で見ることが出来たことは一生の宝物です。

私たちの成人式は色々な大人や地域の方に支えられて出来ていることを身を持って感じる事が出来

ました。この川崎で成人を迎えることができ、本当に誇らしく思います。今後は後輩たちにこういった想いを伝え、市の行事に貢献したいです。

川崎市は、市民想いの素敵な市であることを改めて感じる事が出来る、きっかけとなりました。そう思う事が出来るのも、こういった機会があったからです。

活動自体を知らない、同世代の若者たちにもっと積極的に働きかけが出来れば、もっと素敵な式、市になっていくと思います。そのためにできる事をやっていきたいです。

川崎市インターネット問題相談窓口（ネットの悩み相談しよう！）

子どもたちを取り巻くインターネット問題のトラブルについて、相談に応じています。

電話相談 044-844-3638 平日8:30~20:15受付

PCメール https://sc.city.kawasaki.jp/multiform.php?form_id=74

携帯メール https://sc.city.kawasaki.jp/multiform/k/multiform.php?form_id=74

発行 川崎市青少年育成連盟
事務局 〒213-0001 高津区溝口1-6-10
生活文化会館（てくのかわさき）3階
TEL 044-811-2125 FAX 044-811-2126

青少年団体への加入申し込み、お問い合わせは、
川崎市青少年育成連盟事務局へ

印刷 有限会社 アキプリント社